

「白山市水道事業ビジョン（中間見直し）（案）」に対するご意見と市の考え方について

募集期間：令和6年2月13日(火)～2月26日(月)

結果：2名の方から12件の意見

パブリックコメントに寄せられた計画案へのご意見・ご要望と、それに対する市の考え方は以下のとおりです。

ご意見・ご要望	市の考え方
<p>① 取水池や浄水池（井戸）等の耐震化の計画は早急になされるべきで、年次計画の前倒ししても早急に行くべきではありませんか。また、その対応は、地震の想定にしても決して被害が想定外でしたということがないレベルにて、行くべきであると思います。</p>	<p>ご意見に関する事業計画は、本編9章P3に該当します。</p> <p>「耐震」という言葉がなくても整備・更新する施設・管路は最新の耐震指針に基づき行います。</p> <p>なお、限りある財源や人員の中で実施しますので、ご理解をお願いします。</p>
<p>② また、鶴来・はく山麓等においては、土砂災害や大雨や浸水への対応も見込むべきではないでしょうか。</p>	<p>令和4年8月4日の豪雨災害を受け、山ろく地域の事業計画の見直しをしており、今回のビジョンの見直しに反映しております。</p> <p>なお、今後は地震災害に加え豪雨に備えた訓練や水道施設の更新時には、土砂災害警戒区域を避けた設置箇所の検討など豪雨対策を推進していくこととしております。</p>
<p>③ 当地の特徴として挙げられています、地下水・井戸水利用の簡易水道（管理組合率立等）が多くあることは、メリットとしてとらえることが大切になってきたのではないのでしょうか。</p> <p>大規模化のメリットも当然あると思いますが、当市において、コンパクトな上水道の排水システムは、災害時に部分的な対応がとりやすいなど、早期の（部分的ながら）復旧が可能ではないのでしょうか。</p> <p>*ちなみに今は、簡易水道と市営の水道管は連結されているのでしょうか。</p>	<p>ご意見に関する内容は、本編3章P29に該当します。</p> <p>施設の集約化と分散化については、それぞれ長所・短所がある中で、本市としては集約化が望ましいとしておりますが、ご意見を参考に今後も検討課題としていきますので、ご理解お願いいたします。</p> <p>なお、上水道は隣接する配水区では一部連結しており、民営簡易水道等は連結しておりませんが、可能性について研究していきたいと考えますので、ご理解お願いいた</p>

ご意見・ご要望	市の考え方
もしされていないのであれば、直列（一方向きるといいのではありませんか。	します。
<p>④ 大規模化（集約化）をさらにすすめるとも書かれていますが、これ以上集約化（人員・施設等の削減？）は、いざという時、いかにも漸弱で、担当者の疲弊を招き二次被害・三次被害を迫うことも考えられます。施設設備の多少と余裕と、人材の確保は優先順位は高いと思います。</p> <p>また、簡易水道の管理組合等の高齢化に対しても、市からの援助や人材確保。人件費補助などで、支えていくことは長い目で見て、有効なことだと思います。</p>	<p>ご意見に関する内容は、本編3章P29に該当します。</p> <p>施設の集約化と分散化については、それぞれ長所・短所がある中で、本市としては集約化が望ましいとしておりますが、ご意見を参考に今後も検討課題としていきますので、ご理解お願いいたします。</p>
<p>⑤ また、災害時への対応として、地元事業所等との日頃の関係も大切で、協定等も結ばれていることでしょうか、様々なことをそうていするなら、他市町とともに、他県の市町とも協力協定をしておくことが必要ではないでしょうか。（もうされているなら削除です）他県の市町に出向いて、実際の経験を積んでくることは、当市にとって決して無駄にはならないと思いますし、人材の育成・確保にもなるのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見に関する内容は、本編3章P50に該当します。</p> <p>白山市は、白山市管工事協同組合と応急対策工事に関する細目協定を締結するだけでなく、日本水道協会及び野々市市・川北町と災害時相互応援協定を締結しております。</p> <p>今回の能登地震でも協定に基づき災害支援を行っております。</p>
<p>⑥ こうしたことを進めるためには、財政基盤の確立なしにはできないと思います。そこで、「災害対策」「将来基盤強化」の目的税か、水道料金への一定額の上乗せもやむをえないのではないのでしょうか。</p>	<p>ご意見に関する内容は、本編9章P10に該当します。</p> <p>今回の中間見直しにおいて、計画期間内における財政健全化目標を設定し、水道料金の改定も視野に入れております。</p> <p>経営状況を分析しながら合理的な施設の統廃合や耐震化率の向上等に取り組んでまいります。</p>
<p>1 基本理念について</p> <p>水道事業ビジョンの基本理念として、市の将来都市像である「健康で笑顔あふれる元気都市</p>	<p>日本語の表現としては、ご意見のとおりかと思われます。</p>

ご意見・ご要望	市の考え方
<p>白山」を準用し、「健康で笑顔あふれる元気な白山の水道」としているが、日本語の表現方法として少し違和感を覚えます。基本理念としての意味がよく分かりません。中間時点での見直しは難しいのかもしれませんが、再考できないものかと思います。個人的には、H21策定の理念である「白山の恵みの水を未来まで」の方が分かりやすいと思います。</p>	<p>再考についてですが、本市としては、第2次白山市総合計画の将来都市像に基づき、関連及び印象付ける標語として採用しておりますので、ご理解お願いいたします。</p>
<p>2 能登半島地震を踏まえた見直しについて</p> <p>ビジョン策定の平成30年以降、令和4年の豪雨災害や本年1月の能登半島地震などライフラインの安全性を揺るがす大きな自然災害が発生していますが、当中間見直し案ではこれらの水害・地震等を踏まえた対応が記載されていないように思われます。よって、市水道事業に係る課題設定や施策体系も当初計画時と全く同じとなっているようです。現時点においては、地震被害やその対応などの詳細が整理できていないからとは思われますが、そうであるのならば、本年3月の中間見直し時期を少し遅らせてでも、大雨・地震等を踏まえた中間案としてはどうでしょうか。</p>	<p>令和4年8月4日の豪雨災害を受け、山ろく地域の事業計画の見直しをしており、今回のビジョンの見直しに反映しております。</p> <p>なお、今後は地震災害に加え豪雨に備えた訓練や水道施設の更新時には、土砂災害警戒区域を避けた設置箇所の検討など豪雨対策を推進していくこととしております。</p> <p>能登半島地震を踏まえた見直しについてですが、今後の最新の知見に基づき、中期・後期の2回の見直しに反映させていきたいと考えますので、ご理解お願いいたします。</p>
<p>3 将来へ向けての財政シミュレーションについて</p> <p>(1) 市の将来人口の見通しについて、国の人口問題研究所の予測値（2060年で約76000人）に対して、市の予測値（諸政策により10万人を確保）はあまりにも希望的観測数値と思われ、もう少し現実を見据えた減少予測値により収支計画を立てることが望ましいのではないかと思います。この数値を利用した財政収支計画では収入が過大に試算されると思われま</p> <p>(2) 支出に関する人件費や物価上昇（委託費、動力費、修繕費など）の割合について、1</p>	<p>(1) 白山市の人口の将来展望については、第2期白山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）に基づいております。</p> <p>本市の財政シミュレーションもこれに倣う形となりますが、今後の中期・後期の見直しにおいて、最新の予測値を反映させていただきますので、ご理解お願いいたします。</p> <p>(2) 人件費・物価上昇費等は、令和5年度予算に基づき条件設定しております。</p> <p>基準となる予算額は、ご意見のとおり今</p>

ご意見・ご要望	市の考え方
<p>パーセントの増として試算しているが、近年の状況（人件費や電気料など過去にないほどの大幅増となっており、令和6年度の公共事業労務費単価は約6パーセントの増見込み）を見た場合、1パーセント増では支出が過少に試算されるのではないかと懸念されます。</p>	<p>後も社会情勢により大きく変動していく懸念があります。</p> <p>本市としては、経営状況を分析しながら今後の中期・後期の見直しにおいて、最新の予測値を反映させていきますので、ご理解お願いいたします。</p>
<p>4 水道料金の値上げについて</p> <p>令和11年度に?あたり10円、約9パーセントの料金値上げを予定しているとのことですが、今後の人口減少に伴う料金収入の減少、修繕・更新事業の大幅増、市役所職員の減少（民間委託の増が必須）などを踏まえ、今後50年から100年先までを見通した長期収支予測を行った上での値上げ予定なのでしょうか。少なくとも50年程度先までを見据えた上での段階的値上げ検討が必要と思います。</p> <p>私個人的には、市の水道料金が県内でも2番目に安いこと、簡易水道や民営水道が他の市町村に比べて圧倒的に多いこと、また、今回の能登半島地震による長期にわたる断水被害等を踏まえ、更なる水道施設の耐震化・老朽化対策の推進が必要と考えており、その財源として必要であれば、少なくとも現行料金から2割から3割程度の値上げは十分許容範囲と考えています。</p> <p>これらのことを予測・整理の上、下水道を含めた上下水道のライフラインに関わる財政状況と収支見直しについての住民説明会を開催していただきたいと考えております。住民への的確な説明がされれば、必ず住民の理解が得られるものと思います。</p>	<p>本市水道事業ビジョンにおける目標年度は令和14年度となっておりますが、今後50年の更新需要予測、それに基づく今後20年の長期収支予測に基づき設定しております。</p> <p>今回の中間見直し計画により、料金改定による経営安定を図ることが必要とされており、令和11年度までの中期・後期の2回の見直しにおいて、最新の予測値を反映させた計画に基づき、再度、料金改定率等を設定し、料金検討委員会による審議にかけることになると考えます。</p> <p>また、水道道料金は、概ね3年ないし5年ごとに料金改定の検討を行う必要があるとされていますので、今後もこれに則っていく必要があります。</p> <p>本市は、白山から手取川を流れる豊富な水の恩恵により昔から低廉な水道を利用してきましたが、近年の地球環境や社会情勢に基づく最新の知見により、施設の状況も改善していかなければなりません。</p> <p>ご意見のとおり段階的な上下水道料金の改定を視野に入れつつも、激変緩和により市民の理解を得ながら持続可能な上下水道を維持していきたいと考えますので、ご理解お願いいたします。</p>

ご意見・ご要望	市の考え方
<p>5 戦略的業務指標について</p> <p>戦略的業務指標として耐震化率等の目標値が設定されているが、あまりにも目標値が低すぎると感じます。平成30年の当初計画時に比べても、耐震化率等の各指標目標値が軒並み下げられていることに不安を感じ得ません。</p> <p>例えば、基幹管路の耐震適合率は令和14年度で44パーセントの目標値（10年間で6パーセントの上昇、年当たり1パーセント未満の上昇率）では、耐震化完了には単純計算で100年以上を要し、また、その対策実施中には耐震対策済み管路の老朽化が進展し、その結果、永久に耐震化が完了しないこととなります。</p> <p>少なくとも20年から30年後には耐震化・老朽化対策が完了するくらいにスピードアップを図り、孫子の世代まで安全・強靱な水道を持続させることができるよう、市としての強い姿勢を見せていただきたいと思えます。</p>	<p>ご意見は最もであり、市としても段階的な上下水道料金の改定により財政健全化を維持しつつ可能な限り早急に強靱性の確保に努めてまいります。</p> <p>なお、限りある財源や人員の中で実施しますので、ご理解をお願いします。</p>